



人生第2章をこの地と決め、 コミュニティづくりに奮闘する。

子どもたちとその家族の支援に焦点をあてた社会活動「子ども食堂」が全国に広がっている。湯梨浜町で個性あふれる役割を果たしている「みんなの食堂」も支援の社会活動という意味では通じるものがあるが、性格が少し異なる。「みんなの」と銘打つように、対象はさらに広い。年齢も性別も職業も、障害のある人もない人も、なんの制約もなくどうぞおいでください、という主旨なのだ。

「すべてが家族、その家族のコミュニティ空間といったところでしようか。みんなの居場所ですね」リーダーの村上克己さんが言うように、あたたかく、風通しのよい空気に満たされている。村上さんの生まれは京都だ。大手電機メーカーでばりばり仕事をした。工場の建設にも携わり、営業の最前線にも立ってきた。そうしたなか、定年を迎える直前に倉吉市に赴任した。「第2の人生はこの風土がいいなあ」と夫婦で話し合った。そして土地を探し、ここぞと決めたのが湯梨浜町だった。「当地の人たちは基本的に温厚で、いい意味でのチームワークがあると感じました」。その直感は当たっていたといまも確信する。縁あって、「まちづくり」の会社の切り盛りを委ねられ、電機メーカーでの現役時代に培った実践力を投入することになった。その二環が「みんなの食堂」である。集まる人びとは、地域にかぎらず県外からも評判を聞いてやってくる。リーダーの座右の銘は「人みな我が師なり」。誠実で、人望があつい。

みんなの食堂ゆるりん
村上克己



ゆるりん、

はりま